

ふるさと納税制度はこのままでよいのか

学校法人神戸女学院神戸女学院中学部 3年 内田 絢那

先日、私の家にふるさと納税の返礼品として、家族みんなが大好きなたくさんのお米が届きました。初めてふるさと納税制度の仕組みについて知った時、自分達の希望する地域を支援することが出来る上に、税金が控除され、更に地域の名産品等のお礼の品を頂けるふるさと納税は、なんて魅力的な制度なのだと思います。しかし、そんなふるさと納税制度も様々な物議を醸しているとの聞き、どのような点が問題なのか、そしてどのような対策をとっていくべきなのかを調べ、考えてみました。

そもそも、ふるさと納税制度とは本来、過疎等の影響により、税収が減少している地域と都市部との地域間格差が生じるのを防ぐ為に作られた制度であり、他にも納税者が寄附先を選択出来るからこそ税金の使われ方を考えるきっかけとなる、お世話になった地域や故郷の力になることが出来る、色々な地域の取組を知り、改めて地域のあり方を考えるきっかけとなる、といった大きな意義を持っています。ですが、現在のふるさと納税制度は果たしてこれらの趣旨に沿うことが出来ていると言えるのでしょうか。冒頭で述べたように私は、ふるさと納税制度について魅力的だなと思ったのと同時に、お得な制度だなとも思いました。何故なら、少なくとも私は、将来納税者になったら、返礼品目当てで寄附してしまうなと思ったからです。実際に返礼品目当てで寄附している納税者は多いそうです。そのような状態になると生じてしまうのが、地域間による返礼品競争です。地域を支援するという本来趣旨が希薄となっているほか、一部地域に寄附が集中してしまい、他の地域では税収の減少に苦しんでいるという事態にまでなってしまうそうです。ふるさと納税制度により、税収の地域間格差をなくしていくはずが、むしろ格差を拡大させてしまっているところもあるのです。

実際に、これらの問題点に対する様々な対策の一つとして、返礼品をなしにしている地域が徐々に増えてきているそうです。返礼品をなしにすることで、見返りを求めずに支援することが出来るという点で、本来のふるさと納税の趣旨に沿っていてとてもよい対策だなと思いました。

ただ、返礼品のことを意識してしまっている人が、納税者のほとんどであるというのが現状です。返礼品の価値や内容を重視して寄附先を選び、様々な取組について考えずに、寄附するという行動が問題点に大きく影響しているのではないかと個人的に思います。

返礼品の価値や内容だけでなく、自治体の取組等に対しても理解を深め、重視しながら寄附先を選んだり、寄附先の地域を支援するという心持ちを持ったことが大事だと思います。将来自分が納税者になった時、これらのことを心掛け、ふるさと納税制度を利用出来たらいいなと思います。